

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

## 2019年 第22週（5月27日～6月2日）

### 今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排せつ物の適切な処理が重要

### 定点把握感染症

「夏型感染症（手足口病、ヘルパンギーナ）増加」

第22週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は3,584例であり、前週比4.9%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.79、4.72、3.37、0.71、0.66である。

感染性胃腸炎は前週比2%減の1,338例で、南河内10.31、豊能9.86、大阪市北部9.00、大阪市南部8.11、北河内7.41であった。

手足口病は前週比20%増の930例で、南河内8.63、泉州7.95、大阪市北部5.77、堺市5.26、中河内5.20である。大阪市北部、中河内が新たに警報レベル開始基準値5以上となった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比11%増の663例で、南河内6.75、北河内4.19、中河内4.00、堺市3.95である。

ヘルパンギーナは前週比25%増の140例で、大阪市北部1.92、泉州1.30、堺市1.00であった。

伝染性紅斑は前週比14%減の129例で、泉州1.10、中河内1.00、大阪市南部0.89である。

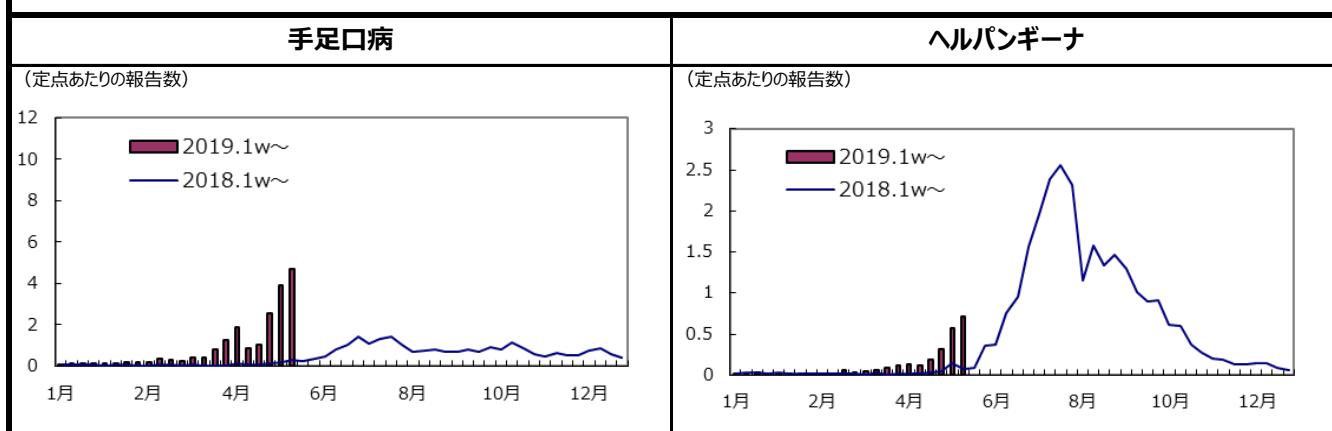
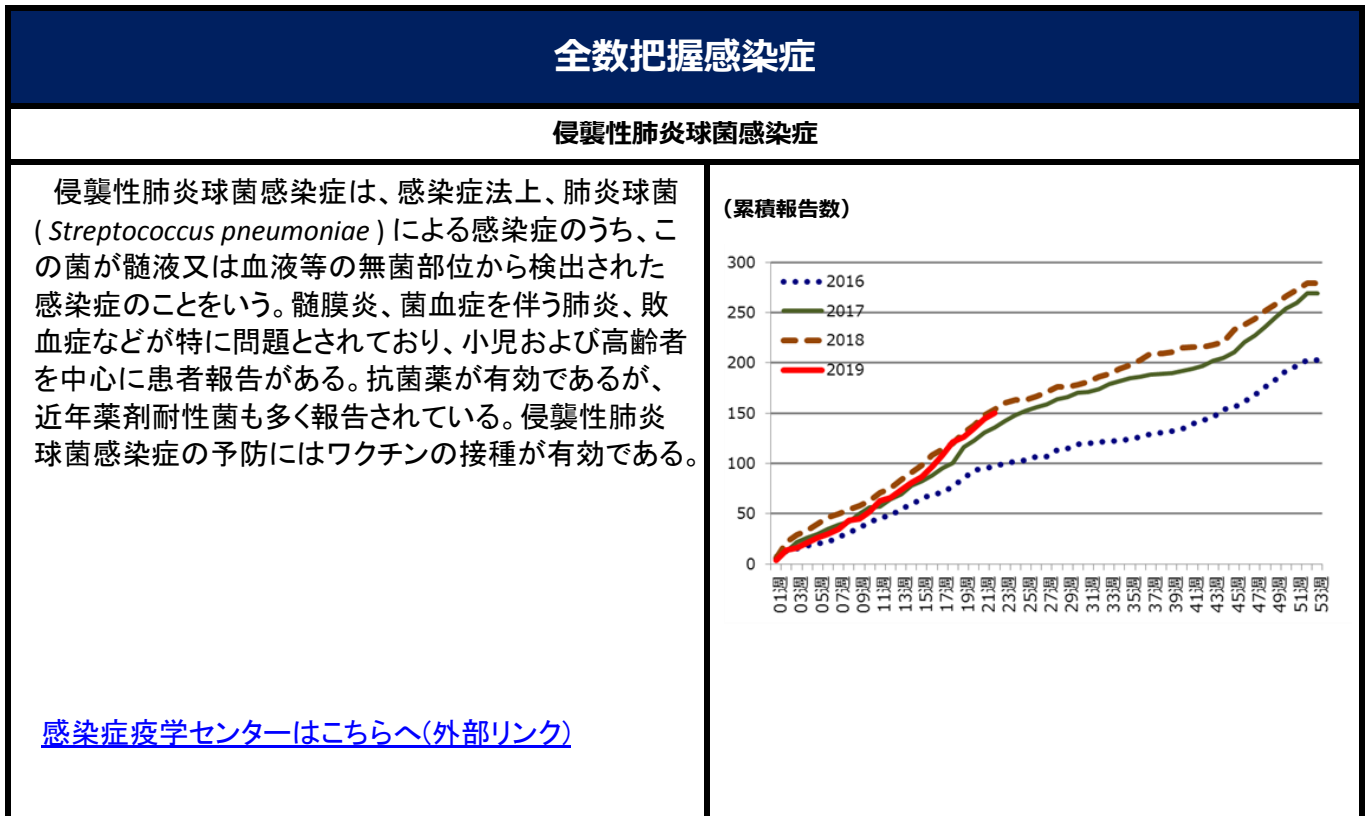


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第22週5月27日～6月2日）

第22週の順位	第21週の順位	感染症	2019年 第22週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第22週の 定点あたり 報告数	2019年第22週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.79	2%減	8.07	1歳_15%
2	2	手足口病	4.72	20%増	0.28	1歳_48%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.37	11%増	3.28	4歳_16%
4	6	ヘルパンギーナ	0.71	25%増	0.08	1歳_41%
5	4	伝染性紅斑	0.66	14%減	0.15	5歳_16%

## 第22週のコメント

～侵襲性肺炎球菌感染症～ 2018年の累積報告数は、過去4年間で最多でした



**表 2. 大阪府全数報告数 (2019年 第22週5月27日～6月2日)**

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4			1					3	41
4類感染症	A型肝炎	1								1	11
	つつが虫病	1								1	1
5類感染症	後天性免疫不全症候群	2								2	54
	シアルジア症	1			1						4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2			1	1					28
	侵襲性肺炎球菌感染症	6	3		2					1	150
	梅毒	12	1			2				9	448
	百日咳	11	2	1		3		3	2		402
	風しん	1			1						116
結核 (2019年4月分)	結核 新登録患者数：134名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 51名) (府内累積報告数 555名、内 肺・喀痰塗抹陽性 216名)										

(2019年6月4日 集計分)